

## 10 日本統計研究所のジェンダー統計関係出版物

統計研究所でのジェンダー統計への関心は 1980 年代後半からである。家計調査における収入主体の区分が持つ問題（世帯主、世帯主の妻という区分によって、女性世帯主の位置づけは不可能）、あるいは合衆国での「世帯主」概念に代えての「参照人」概念の使用、そして 1978 年のセンサス局主催の女性統計に関わる連邦統計会議の開催、などは既に把握していた。（文献 23）での家計調査の検討で、論議があった。

1990 年代のはじめに、「女性と統計」問題の集中的検討の必要が研究所で意識され、1991-94 年に欠けて、統計研究所のプロジェクトが起こされた。ここで、海外の関連主要文献の紹介が集中的に行われ（文献 1~4）、プロジェクトの成果が、（文献 19）にまとめられた。この間、世界統計協会（ISI）のフイレンツィエ会議で、90 年代の世界のジェンダー統計活動と論議をリードする B. ヘッドマン等によって、「ジェンダー統計」セッションが開催される。統計研究分野での「ジェンダー統計」という名称の登場、アピールであった。日本では NVEC で「女性及び家族に関する統計の調査研究」プロジェクトが 1992 年に開始され、1997 年に及んだ（文献 32）。

1995 年の北京会議には、統計研究所関係メンバーが NGO 会議あるいは政府間会議に参加し、国際的リーダーとの連携・交流が強められた。この関連で、北京女性会議での「ジェンダー統計関係」の論議の紹介（文献 6）を経て、B.ヘッドマン他のテキスト、*Engendering Statistics* の翻訳紹介（文献 21）に至った。

この間、その当時、国際論議をリードした国連統計部やインストローなどの文献の紹介が継続され、同時に ISI 諸会議、や北京女性会議、さらに 2000 年国連会議（北京+5 会議）への統計研究所関係者の参加、インストロー（サントドミンゴ、ドミニカ共和国）や NY の国連統計部のジェンダー統計担当者への訪問もあり、日本からの発信が行われたことになる。

2000 年代に入って、統計研究所でのジェンダー統計研究は、国際的な問題領域の広がりや国内でのジェンダー統計活動の進展に対応して、広がりや深化をみる（文献 7~12）。統計研究所を拠点として、科学研究費プロジェクトが 2001-02 年度と 2005-06 年度にわたって進められ、これが、NVEC の『男女共同参画統計データブック』2003,2006 版（文献 36,37）の作成と連携した。2001-02 年度プロジェクトでは、関係資料の収集も行われ（文献 13~15）、本研究所報の第 III 部に 9 として採録した文献リストは、このプロジェクトの産物である。2006 年版には、男女共同参画局からの性別統計の委託研究の成果（文献 33）も反映されている。2003 年 7 月の内閣府男女共同参画会議・苦情処理・監視専門調査会からの『男女共同参画にかかわる情報の収集・整備・提供に関する調査検討結果について』（文

献 35) の発行をみて、日本の国レベルでのジェンダー統計の充実に向けての方向提起と実際の作業の一部は、不十分なながらも一定程度、着手されたとみて、2005-06年度の科学研究費プロジェクトは「ジェンダー統計の一層の発展、①理論深化、②世界へ、アジアへ、③地方へ」をテーマにして、研究の質的拡大をめざすものとなった。①～③をめざす論議は、本研究所報にその成果の一部を収録している。そして②では JICA や NVEC と、③も研究所独自あるいは科学研究費プロジェクトによって、そして特に NVEC と連携しながら進められているところである。

ジェンダー統計研究は、人権、開発、貧困削減と統計の問題と関連する。これらの問題はジェンダー統計視角を不可欠とするし、ジェンダー統計研究はこれらの問題につながる。研究所の研究は、(文献 25,26) 等でジェンダー統計研究の背景をひろい上げている。また統計研究一般が、ジェンダー統計研究を深めることになる。ミクロ統計研究 (文献 24,27) と「統計の品質」論議の研究 (文献 28～31) がこれに貢献している。

なお、以上の文献は、統計研究所の出版物リストとして、日本統計研究所のウェブサイトに目次とともに提示されており、このうち、執筆者〔翻訳原文をふくめて〕の掲載許可を得たものについては、PDF ファイルで全文が参照可能になっている。日本統計研究所はウェブサイトでのこの方向での便宜を強化しようとしている。

## 1. 統計研究参考資料

文献番号	統計研究参考資料	文献名	著・訳者	出版年月日
1	34	国連事務局『性的ステレオタイプ、性的偏りおよび国家データシステム』(翻訳)	田中尚美	1991/06/30
2	39	『女性と統計』関連主要文献(翻訳)	伊藤陽一・杉橋やよい	1993/07/31
3	40	インストローと女性に関する統計	中野恭子・伊藤陽一	1993/09/30
4	42	ジェンダー統計の現状	伊藤陽一・杉橋やよい	1994/01/31
5	45	国連(1984年)『女性の状況に関する統計と指標のための概念と方法の改善』(翻訳)	田中尚美	1995/12/31
6	49	国連(1995年)『世界規模のジェンダー統計に関するワークショップ』(翻訳)	杉橋やよい	1996/04/30

7	51	インストローとジェンダー統計	伊藤 陽一・水野谷 武志	1997/06/30
8	71	無償労働と有償労働のつながり(翻訳)	伊藤陽一・橋本美由紀	2001/03/20
9	75	ECE地域のジェンダー統計ウェブサイト(翻訳と論文)	伊藤 陽一	2001/11/26
10	87	ICT・メディアとジェンダー問題・ジェンダー統計(翻訳と論文)	伊藤 陽一	2004/12/04
11	91	イギリス国家統計局(ONS)世帯サテライト勘定[試験的]方法論	橋本美由紀	2005/12/.25
12	92	ジェンダー予算・人中心の予算(1):翻訳と論文	伊藤 陽一(訳・論文)	2006/03/25

## 2. プロジェクト関係資料

### 2.1 ジェンダー統計参考資料

番号	文献名	編者	出版年月日
13	ジェンダー統計関係論文等(日本)集成 No.1ー第4回世界女性会議前後までー付:世界女性会議決議等における統計関連事項	科学研究費:ジェンダー統計研究グループ	2002/03
14	ジェンダー統計関係論文等(日本)集成 No.2ー1995~1999年	ジェンダー統計研究グループ	2002/10
15	ジェンダー統計関係論文等(日本)集成 No.3ー200~2002年 一般文献および生活時間統計・無償労働評価、ジェンダー統計書ー	ジェンダー統計研究グループ	2003/.03

### 2.2 科学研究費関係資料

16	『ジェンダー統計研究の新展開と関連データベースの構築』(平成 13-14 年度科学研究費補助金研究結果報告書	ジェンダー統計研究グループ	2003/3
17	『ジェンダー統計研究グループ(GSRG)ニュース』(同上研究プロジェクト内ニュース)No.16 まで発行	ジェンダー統計研究グループ	2001.5~03.4
18	『一層ニュース』(平成 16-17 年度科学研究費補助金「ジェンダ	「一層」研究グループ	2005.4~

一統計研究の一層の展開－①理論の深化、②地方自治体へ、③アジア・世界へー』(平成 18 年度 2 月 1 日に No.17 発行)		
---	--	--

2005-06 年科学研究費プロジェクトでは、研究分担者・協力者内部で「一層研究ニュース」を 2005 年 4 月から 2007 年 1 月まで No.17 まで発行している。

### 3. 市販本

文献番号		文献名、著者・訳者等	内容構成
19	著書	伊藤陽一編著 著者:田中尚美, 中野恭子, 中村安子, 岩崎俊夫, 桜井絹江, 杉橋やよい, J・バナック-G.ベディアコ・F.ペルーチ, L. U. フェラン, B.ヘッドマン 『女性と統計－ジェンダー統計論序説』 1994/11 梓出版社	第 1 部：ジェンダー統計の展開過程, 1. 国連における女性に関する統計のための諸活動, 2. インストローと女性に関する統計, 3. アメリカ合衆国における女性と統計－センサス局の動向を中心にして－, 第 2 部：ジェンダー統計に関する幾つかの問題－ 4. 世帯統計と世帯主, 5. 職業別性別隔離指数, 9. 賃金の性別格差統計の国際比較, 7. 国民経済計算体系 (SNA) と女性労働, 第 3 部：ジェンダー統計論と統計集をめぐって－ 8. ジェンダー統計と女性統計集の現段階, 9. 国連『世界の女性 1970-1980.その実態と統計』をめぐって, 10. 日本におけるジェンダー統計の発展に向けて, 第 4 部：ジェンダー統計の現段階－国際的視野から－ 11. ジェンダー統計：問題と挑戦課題, 12. 女性と男性の経済的貢献の測定, 13. ジェンダー明示的統計の世界規模での改善
20	訳書	杉橋やよい, 居城舜子・伊藤陽一訳 : M.Gunderson, <i>Comparable worth and gender discrimination: An International perspective</i> 1994, ILO, 『コンパラブル・ワースとジェンダー差別－国際的視角から』 1995/10/10 梓出版社	1. 序論, 2. 賃金不平等の考えうる要因, 3. さまざまなイニシャティブの及ぶ範囲と現実的な影響, 4. コンパラブル・ワースの概念, 5. コンパラブル・ワース適用の諸ステップ, 6. 設計と実施に関する補足的問題, 7. 異なる国々での応用, 8. コンパラブル・ワースの理論的に想定される影響, 9. 北アメリカの場合についての資料, 10. 賃金格差と雇用及びその他への影響に関する資料, 11. 民間部門への適用, 12. 異なった経済システムと発展段階でのコンパラブル・ワース, 13. 要約と結論
21	訳書	伊藤陽一, 中野恭子, 杉橋やよい, 水野谷武志, 芳賀寛訳 : B. Hedman, F. Perrucci, P.Sundstrom,	序論, 1 章：ジェンダー統計の生産過程の概観, 2 章：ジェンダー問題, 3 章：ジェンダー問題に関する統計と指標, 4 章：データの入手可能性と室, 5 章：ジェンダー統計の分析と提示, 6 章：ジェンダー問題に関する統計出版物, 7 章：ジェンダー

		<i>Engendering Statistics- A Tool for Change</i> ,1996, Statistics Sweden、『女性と男性の統計論－変革の道具としてのジェンダー統計』1998.1.梓出版社	統計における訓練
22	著書	伊藤陽一・岩井浩・福島利夫編著，著者：近昭夫，森博美，良永康平，泉弘志，藤岡光夫，岩崎俊夫，山田茂，横本宏，藤江昌嗣 『労働統計の国際比較』 1993/10/1、梓出版社	1. 労働統計の国際比較をめぐって，2. 就業構造の変化，3. 失業・不安定就業，4. 国際労働移動，5. 賃金・労働費用，6. 労働時間，7. 労働生産性，8. 剰余価値率，9. 労働災害・職業病・健康，10.女性労働，11.家計支出，12.消費者物価，13.住居と居住環境，14.労働組合と労働争議

#### 4. ジェンダー統計論議をふくんでいる関連発行文献

##### 4.1 ジェンダー統計関連論文をふくむ出版物

番号		文献名		
23	研究所報 No.26	家計関連統計		
24	同上 No.25	研究所報：マイクロ統計データの現状と展望		1999/01/31
25	同上 No.26	研究所報：統計と人権および開発－IAOS2000をめぐって－	伊藤 陽一（訳・論文）	2001/03/15
26	同上 No.30	研究所報：国連ミレニアム開発目標と統計	伊藤 陽一〔訳・論文〕	2003.10.30
27	同上 No.34	研究所報 政府統計の二次的利用		2005.9

##### 4.2 ジェンダー統計に関わる出版物－統計品質論

28	統計研究 参考資料 61	「統計の品質」をめぐって－翻訳と論文	伊藤 陽一（訳・論文）	1999.12
29	同上 79	「統計の品質」をめぐって－翻訳と論文(2)	伊藤 陽一・千葉敦士（訳・論文）	2002.9

30	同上 89	統計の品質(3:国際統計機関における統計の品質—Q2004 サテライト会議を中心に—)	伊藤 陽一(訳・論文)	2005.9
31	同上 93	統計の品質(4)—翻訳と論文 —IMF・品質サイトと Q2004 を中心に	水野谷武志(訳・論文)	2006. 7

#### 5. 当研究所出版物以外で研究所所員が関与した出版物

32	NWEC『女性及び家族に関する統計データベース研究 開発報告書』	女性及び家族に関する統計の調 査研究会:伊藤陽一、岩崎俊夫、 久場嬉子、篠塚英子、杉山明子、 田中尚美	1997.3
33	NWEC『性別データの収集・整備に関する調査研究報告 書』(平成 13 年度内閣府委託調査)	伊藤陽一、天野晴子、大竹美登 利、岡村清子、斉藤悦子、芳賀 寛、福島利夫、藤岡光夫、中野洋 恵、高橋由紀、宮沢紀美	2002.8
34	NWEC『女性と家族に関する統計データベースの改善方 針書(暫定判)』		2003. 3
35	男女共同参画会議・苦情処理監視専門調査会『男女共同参画に かかわる情報の収集・整備・提供に関する調査検討結果について (平成 14 年度において男女共同参画会議が重点的に監視を行う男 女共同参画社会の形成の促進に関する施策の実施状況の監視に 関する調査検討結果)』		2003. 7
36	NWEC 編集『男女共同参画統計データブック2003 日本の女性と男性』	NWEC.伊藤陽一・杉橋やよい編:伊藤 陽一、岡村清子、芳賀寛、斉藤悦子、 大竹美登利、天野晴子、中野洋恵、福 島利夫、藤岡光夫、小林千枝子、高橋 由紀	2003.8
37	NWEC 編集『男女共同参画統計データブック2006 日本の女性と男性』	NWEC.伊藤陽一編:水野谷武志、久保 桂子、粕谷美佐子、杉橋やよい、斉藤 悦子、天野晴子、中野洋恵、丸山桂、 伊藤純、宮園久栄、高橋由紀	2006.3

